



中日言語対照研究論叢

# 汉日语言对比研究论丛

(第4辑)

汉日对比语言学研究(协作)会 编

北京大学出版社  
PEKING UNIVERSITY PRESS

# 汉日语言对比研究论丛

第4辑

汉日对比语言学研究(协作)会 编



北京大学出版社  
PEKING UNIVERSITY PRESS

## 图书在版编目(CIP)数据

汉日语言对比研究论丛. 第4辑/汉日对比语言学研究(协作)会编. —北京:北京大学出版社, 2013. 8

ISBN 978-7-301-23009-1

I. ①汉… II. ①汉… III. ①汉语—对比研究—日语—文集  
IV. ①H1-53②H36-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2013)第 186664 号

书 名: 汉日语言对比研究论丛·第4辑

著作责任者: 汉日对比语言学研究(协作)会 编

责任编辑: 兰 婷

标准书号: ISBN 978-7-301-23009-1/H·3359

出版发行: 北京大学出版社

地 址: 北京市海淀区成府路 205 号

网 址: <http://www.pup.cn>

新浪官方微博: @北京大学出版社

电 话: 邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62759634

出版部 62754962

电子信箱: [lanting371@163.com](mailto:lanting371@163.com)

印 刷 者: 三河市北燕印装有限公司

经 销 者: 新华书店

880 毫米×1230 毫米 A5 10.625 印张 270 千字

2013 年 8 月第 1 版 2013 年 8 月第 1 次印刷

定 价: 33.00 元

---

未经许可,不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有,侵权必究

举报电话: 010-62752024 电子信箱: [fd@pup.pku.edu.cn](mailto:fd@pup.pku.edu.cn)

## 《汉日语言对比研究论丛》编委会

主 编：林 璋

副 主 编：赵 刚 王亚新

编 委：陈访泽 陈俊森 戴宝玉 高 宁 林 璋 卢 涛  
彭广陆 朴贞姬 王 忻 王亚新 吴大纲 许宗华  
续三义 杨凯荣 俞晓明 张 威 张麟声 赵 刚  
赵华敏 朱春跃 朱京伟

主编助理：魏丽琴

# 前 言

《汉日语言对比研究论丛》(第4辑)问世了。汉日对比语言学研究(协作)会第二届理事会第一次全体会议决定,《汉日语言对比研究论丛》自第4辑起改为反映本会全体会员会友学术成果的代表性出版物,以每年一度的汉日对比语言学研讨会论文为主体,兼收会员会友的最新研究成果。

本辑共收到49篇来稿,经本会编辑委员会专家严格审读,最终采用19篇论文。其中,大会论文12篇,非大会论文7篇。另外3篇特约论文,均为第4届汉日对比语言学研讨会上的主题报告和大会讲演。会议论文占2/3强。

第4届汉日对比语言学研讨会于2012年8月18日—19日在长沙岳麓山下的湖南大学举办,开幕式由湖南大学外国语与国际教育学院副院长张佩霞教授主持,湖南大学副校长章兢教授、第二届汉日对比语言学研究(协作)会会长朱京伟教授、日本国际交流基金会北京日本文化中心松浦友子女士、卡西欧(上海)贸易有限公司副总经理岩丸阳一先生等出席了开幕式并致辞。开幕式后举行了2011年度“汉日对比语言学奖(卡西欧学术奖)”的颁奖仪式。中国社科院语言研究所副所长刘丹青研究员、日本丽泽大学井上优教授为大会做了基调和报告。次日,日本大阪府立大学张麟声教授、湖南大学张佩霞教授做了大会讲演。本次研讨会设12个分会场,共有81位代表在分科会上宣读了自己的论文。

本届研讨会还进行了换届选举,产生了第二届理事会和常务理事。常务理事会对本会的秘书处、学术委员会、大会委员会和编辑委员会的职能进行重新分工和定位,决定《汉日语言对比研究论丛》

由本会编辑委员会负责编辑,年会承办校不再参与编辑工作。

在新的机制下,我们正在探索适合本会发展的运作模式。我们希望全体会员会友踊跃参加每年一度的研讨会,齐心协力提高汉日语言对比的研究水平,通过《汉日语言对比研究论丛》这个平台来展示本会的最佳成果。

《汉日语言对比研究论丛》编委委员会

2013年5月10日

## 本辑内容提要

井上優「テンスと文法現象—日本語と中国語の対照研究からわかること—」举出汉语中5个从日本人的角度看觉得有些不可思议的现象，认为这种差异是“作为语法范畴的时的有无”造成的。如日语的不及物动词可以表示自然发生的结果（自律）和人为因素造成的结果（非自律）；而汉语中自律的结果由动词本身表示，而非自律的结果则需要使用补语。又如汉语的表达形式作为“句子”的完结感与情景感有关，情景感越强越容易成句。

张麟声《关于“服务于寻求语言类型特征的对比研究”的几点构思》讨论了语言对比研究的目标取向，并提出相应的实施途径。张佩霞《从入场理论看汉语定语标记“的”与日语定语标记「の」》着重分析了定语和中心语的13种语义关系，以及在这些语义关系中定语标记的使用状况。

在“语法研究”方面，高橋弥守彦「日中対照関係から見る中国語の使役表現」通过对译语料分析了汉语中由“叫”、“让”、“使”和“令”构成的“使令句”与日语使役句的关系。陳潔羽「持主受動文における目的語の繰り上げ—中日対照の立場から—」从生成语法的角度探讨了日语所有者被动句中宾语提升的理论解释。井川壽子、鄭聖汝「中国語における消失を表す存現文について」分析了汉语中表示消失的存现句“我们班里转走了一位同学。”与非存现句“邻村的牛从村里跑了。”和“衣服上的扣子掉了。”之间在句法上的异同。王学群「日本語の継続相と中国語の“V着”、“在V”」从动词的类别、语法义(基本语法义和派生语法义)、句子结构、篇章(语境)特征等层面考察日语的「Vている」和汉语的“V着”、“在V”的对应关系。张岩红「“已经…过…”等と日本語の対応表現について」考察了与汉语“已经…过…”等形式对应的日语说法，指出很多情况下都不译出“已经”一词，“过”也很少

译为「～したことがある」的形式，而更多的对应形式为「～した」。王楠、李光赫「原因・理由文の継起性について—カラ I と“P,就Q”を中心に」分析了表示原因、理由的「カラ」可以翻译成汉语的“P,就Q”、“（因为）P，（所以）Q”或者是“P，（所以/因此）Q”，而一般不能翻译成“因为P，Q”和“P，Q”，并分析了其中的原因。徐愛紅、守屋三千代「モダリティをめぐる中日対照研究—＜事態把握＞の観点から—」分析了汉日两种语言的情态表达形式，并从两语言“识解”模式的不同对差异现象给与了解释。认为汉语和英语一样表现具有多义性，可能性情态表达形式丰富，这是“客观识解”型语言的共性；日语情态表现不具多义性，表可能与可能性的专用情态表现欠缺，这也与日语是“主观识解”型语言有关。朴貞姬「日中「過剰」表現の対照研究」以日语中的「料理を作りすぎた。＜数量過剰＞」和汉语的“\*做菜做过头了。＜数量過剰＞”这种表示数量过剩的表达形式为对象，分析了相关的形式和意义的异同。杨文江《现代日语口语中示证标记使用状况的个案调查》以电视剧「1リットルの涙」的对白为对象，调查了现代日语的示证标记「ヨウ」「ミタイ」「ラシイ」「ソウ」「ッテ」和近年来新兴起的「ッポイ」等的使用频率，并预测了这些形式今后的兴衰趋势。杨晓敏《「Aく+Vすぎる」与“V（得太）A了”之比较研》分析了汉日语言中的这两种形式在语义表达上的异同，认为较之“V（得太）A了”，「Aく+Vすぎる」的成立受到诸多条件的限制。

在“语用研究”方面，王先哲「被依頼者の断り行動に対する予測」对日语请求行为中的被请求人的行为进行预测，认为日语母语者比日语学习者在较早的阶段预测到被请求人的拒绝意图，并通过11种“迹象”，分析了日语母语者和日语学习者两者之间的差异。孫楊「勧誘に対する「承諾」発話行為について—日本語母語話者と中国人日本語学習者を対象として—」同样以日语母语者和中国日语学习者对象，通过问卷调查考察了“邀请的承诺”这一言语行为，发现日语母语者在进行“邀请的承诺”行为时，有把“承诺”行为改为“请求”行为的倾向；而中国日语学习者有把“承诺”行为改为“邀请”行为的倾向。孙莉、赵刚、贾琦《集体讨论中填充语的汉日对比研究》从信息处理功能、会话管理功能和



人际关系调节功能的角度考察了汉日两种语言中母音型（如：「ア」「エー」「哦」「啊」）、拨音型（如：「ウン」「ウーン」「嗯」）等7个类型的填充语的使用状况。

在“词汇研究”方面，邱根成《四汉字词语的汉日对比—以“N+V”结构为中心—》认为现代汉语中的四字“N+V”，与日语句法结构相同，但是呈现语义语用不一致性；与日语“N+V”四字词语相比，现代汉语用作动作性名词。吴琳「「怒り」を表す慣用句の使用頻度の中日対照」分别以汉语和日语的母语使用者为对象，对表示“生气”的惯用语的使用频率进行了意识调查。

在“翻译研究”方面，侯仁锋、长谷川绚子《“一点儿”的用法与日译表达的考察》以“中日对译语料库”汉语原文中“一点儿”的译文为对象考察了各种翻译方法。

在“二语习得研究”方面，杉村泰「中国語話者の日本語使用に見られる有対動詞の自・他・受身の選択—被害や迷惑の意味を表す場合—」采用问卷调查的形式，考察了成对动词中及物动词、不及物动词以及被动态含有受害、麻烦义的使用状况。蘇穎、曹紅荃「プロトタイプ理論からみる中国人日本語学習者の「ひらく」の習得——母語話者との対照をかねて」运用原型理论通过自由产出的方法，对比母语者和学习者对「ひらく」的原型意义及其他意义典型度的认知，并根据学习者的产出结果，观察「ひらく」的习得情况。

在“语料库研究”方面，田中良「検索結果へのタグ付与による再コーパス化—『HASHI』による実装—」通过自主开发的语料库检索工具“HASHI”介绍了从语料库检索得到语料后对语料加注标签进行再度语料库化的实施步骤。

# 目 录

## 特 约 论 文

テンスと文法現象—日本語と中国語の対照研究

からわかること—……………井上優 1

关于“服务于寻求语言类型特征的对比研究”

の几点构思……………张麟声 16

从入场理论看汉语定语标记“的”与

日语定语标记「の」……………张佩霞 27

## 语 法 研 究

日中対照関係から見る中国語の使役表現……………高橋弥守彦 45

持主受動文における目的語の繰り上げ

—中日対照の立場から—……………陳潔羽 57

中国語における消失を表す存現文

について……………井川壽子、鄭聖汝 73

日本語の継続相と中国語の“V着”、“在V”……………王学群 87

“已经…过…”等と日本語の対応表現について……………张岩红 106

原因・理由文の継起性について

—カラIと“P,就Q”を中心に……………王 楠、李光赫 120

モダリティをめぐる中日対照研究

—〈事態把握〉の観点から……………徐愛紅、守屋三千代 133

日中「過剩」表現の対照研究……………朴貞姫 146

- 现代日语口语中示证标记使用状况的个案调查 …………… 杨文江 159  
 「Aく+Vすぎる」与“V(得太)A了”  
 之比较研究 …………… 杨晓敏 174

## 语用研究

- 被依頼者の断り行動に対する予測 …………… 王先哲 189  
 勧誘に対する「承諾」発話行為について—日本語母語話者  
 と中国人日本語学習者を対象として—…………… 孫 楊 204  
 集体讨论中填充语的  
 汉日对比研究 …………… 孙 莉、赵 刚、贾 琦 221

## 词汇研究

- 四汉字词语的汉日对比  
 —以“N+V”结构为中心— …………… 邱根成 233  
 「怒り」を表す慣用句の使用頻度の中日対照 …………… 吳 琳 244

## 翻译研究

- “一点儿”的用法与日译表达的考察 …… 侯仁锋、长谷川绚子 260

## 二语习得研究

- 中国語話者の日本語使用に見られる有対動詞の自・他・受身  
 の選択—被害や迷惑の意味を表す場合—…………… 杉村泰 275  
 プロトタイプ理論からみる中国人日本語学習者の「ひらく」  
 の習得——母語話者との対照をかねて …… 蘇 穎、曹紅荃 287

## 语料库研究

検索結果へのタグ付与による再コーパス化

— 『HASHI』による実装— ..... 田中良 302

Contents ..... 317

编后记 ..... 320

《汉日语言对比研究论丛》来稿注意事项 ..... 321

附录：第二届汉日对比语言学研究（协作）会组织机构 ..... 324

# テンスと文法現象

## —日本語と中国語の対照研究からわかること—

麗澤大学外国語学部

井上優

**提要** 言語対比研究の目的は通过对两种或两种以上的复数语言进行对比分析，探索各种语言的特色，从中寻求一种语言研究的公平视角。笔者母语是日语，主要研究对象也是日语。在日常生活和教学研究中较多的机会接触汉语。对汉语中的很多现象经常会产生一些疑问。这些疑问就是笔者从事日汉对比研究的出发点。解答这些疑问有助于我们认识日汉两种语言的本质特点。本文列举了汉语的五种现象，单从日语的角度来看，这些现象似乎有些难以理解，而它们其实都与“时态的有无”有着密切的关系。

**キーワード** 変化 段階性 程度副詞 完結性 継続表現

### 1. はじめに

言語の対照研究は、複数の言語を比べて考えることを通じて、各言語の特性を明らかにし、各言語を相対的な視点から公平に見ることが出来る視点を見出す研究である。筆者は日本語を母語とする日本語研究者であり、外国語である中国語については「なぜこのようなことが起こるのか？」と不思議に思う現象が数多くある。そのような現象を出発点として日本語と中国語の対照研究をおこなうことは、日中両言語の本質的な特徴を明らかにする上で有益であり、日本語を母語とする日本語研究者が日中対照研究に対して重要な貢献をなしうる部分である。

本論では、日本語の感覚からすると非常に不思議に思える中国語の現

象を五つとりあげ、それらの現象が「文法カテゴリーとしてのテンスの有無」という観点から説明できる（井上2012）ことを述べる。

## 2. 変化の表現様式

まずとりあげるのは、「変化」の表現様式である。

変化には、自然発生的に生ずる自律的变化と、動作の結果生ずる非自律的变化がある。日本語は、いずれの場合も、変化動詞を用いて「結果としてこうなった」という形で変化を叙述する。

- (1) a. 服が乾いた。（乾かした結果乾いた〔非自律的〕／自然に乾いた〔自律的〕）  
 b. 服がきれいになった。（洗った結果きれいになった〔非自律的〕）  
 (2) a. 病気が治った。（治療の結果治った〔非自律的〕／自然に治った〔自律的〕）  
 b. 自転車が直った。（修理の結果直った〔非自律的〕）

一方、中国語では、結果のみに言及して「結果としてこうなった」という形で変化を叙述できるのは、自律的变化（特定の動作が想定できず「何らかの力」としか言えない場合を含む）に限られる（木村1997）。動作の結果生じた非自律的变化を叙述するには、通常「動作－結果」の動補構造を用いる。

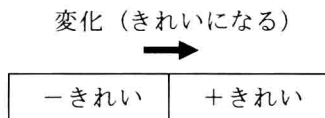
- (3) a. 衣服晾干了。〔非自律的〕／衣服干了。〔自律的〕  
 b. 衣服洗干净了。〔非自律的〕／??衣服干净了。  
 (4) a. 他的病已经治好了。〔非自律的〕／他的病已经好了。〔自律的〕  
 b. 他的自行车修好了。／??他的自行车好了。〔非自律的〕

日本語の感覚では、変化を叙述するのにいちいち動作に言及する中国語のやり方は非常に不思議である。しかし、次のように考えれば、中国語のこの現象はごく自然なこととして理解できる（井上2012）。

「変化」とは、時間の流れにそって変化前の状態から変化後の状態に移行することである。そして、日本語では、変化前から変化後への移行過程（(5)の矢印部分）そのものが変化動詞として言語化されている。文法カテゴリーとしてのテンスを有する日本語においては、変化を

叙述するために必要な時間の流れが動詞に内包されており、それゆえ動詞単独で変化を叙述することができる。

(5) きれいになった



一方、文法カテゴリーとしてのテンスを持たない中国語は、述語形式に時間の要素が内包されていない。そのため、「動作-結果」という二つの局面を組み合わせて時間の流れをつくることにより、変化を叙述する。2枚のスライドを組み合わせて動画にするのと同じように、「動作」と「結果」を組み合わせて、変化を構成的に叙述するのである。

(6) 洗干净了



自律的变化を叙述する場合も、中国語では「自然力-結果」という二つの局面を組み合わせて変化を叙述すると考えるのが自然である。具体的な動作に言及しない場合は、自然力を読み込む形で時間の流れをつくり、変化を構成的に叙述するのである。

(7) 干了



受動文にもこれと本質的に同じ現象が見られる。日本語でも中国語でも、受動文は「影響を受ける」という変化を述べる表現であるが、中国語ではそのために、「動作主の動作の結果として被動主がある状態にナル」ことを述べる必要がある(木村2012)。実際、中国語の受動文は、

動作の結果を明示的に述べる（例9b），あるいは結果を強く含意する動詞を用いる（例10b）などして，「動作」と「動作を受けた結果」の二つに言及する必要がある。日本語の受動文にはそのような制約はない。

- (8) a. 私はシャオホンに引っぱられた。  
 b. ??我被小红拽了。 (木村2012)
- (9) a. 私はシャオホンに引き倒された。  
 b. 我被小红拽倒了。 (同上)
- (10) a. 彼の家はゴロツキども焼かれた。  
 b. 他的房子被地痞烧了。 (同上)

このことも次のように考えればよい。述語形式に時間の流れが組み込まれている日本語では，「影響を受ける」過程そのものが受動形式-(r)areで表される。一方，中国語の受動文は，「動作」と「動作を受けた結果」の二つを組み合わせることで時間の流れをつくることにより，「影響を受ける」過程を構成的に叙述する。

### 3. 段階性の表現様式

次にとりあげるのは，時点に〈段階〉の意味を付与する様式の違いである。

事態実現のタイミングが想定よりも早いことを述べる場合，中国語では，より軽い条件で事態が実現することを表す“就”（もう，早くも）を用いる。また，事態実現のタイミングが想定よりも遅いことを述べる場合は，より重い条件のもとではじめて事態が実現することを表す“才”（やっと）を用いる。“就”，“才”がなければ，事態実現のタイミングが想定よりも早い・遅いという意味は生じない。

- (11) a. 演出七点半开始，他七点 {就/#φ} 到剧场了。  
 b. 演出七点半开始，他八点 {才/#φ} 到剧场。

(刘月华ほか2001)

日本語では，事態実現のタイミングが想定よりも早い・遅いことを表



すのに、「もう」「やっと」と言う必要はない。事態実現の時点強調すれば、事態実現のタイミングが想定外であるという含みが生ずる（想定より早いか遅いかは文脈で決まる）。

(12) a. 公演は7時半に始まったが、彼は7時に（もう）劇場に着いた。

b. 公演は7時半に始まったが、彼は8時に（やっと）劇場に着いた。

このような日本語と中国語の相違は、時点に〈段階〉の意味を付与する様式が異なることから生ずる。文法カテゴリーとしてのテンスを有する日本語は、時間の流れに乗る形で事態を叙述するようにできている。これにより、(13)に示すように、「7時／7時半／8時」は時点を表すと同時に、「7時→7時半→8時」という時間の流れの中の〈段階〉を表すことになる。そのため、時点を強調して予想外の気持ちを表すだけで、「より早い・遅い段階で事態が実現された」という意味の文になる。

(13) 日本語

到着		到着	
7時	7時半	8時	→ 時間の流れ (= 段階)
(-30分)	(想定)	(+30分)	

一方、文法カテゴリーとしてのテンスを持たない中国語は、時間の流れに乗る形で事態を叙述するにはできていない。中国語において、「7時／7時半／7時」は事態実現の時点を表すだけであり、「7時→7時半→8時」という時間の流れの中の〈段階〉を表すには、“就”，“才”を用いて時点に〈段階〉性を与える必要がある。“就”，“才”により事態実現に必要な条件や労力が想定より軽い・重いことを述べることにより、「想定より早い・遅い段階で」という意味を表す。時間的なタイミングの早さ・遅さを労力の軽・重に置き換えて表現すると言ってもよい。